

## 丸山恵也教授記念号によせて

丸山恵也先生は、函館商科短期大学専任講師、東洋大学経済学部専任講師、同大学経営学部助教授を経て、1972年本学経済学部助教授に就任され、以来2000年3月に定年退職されるまでの28年間、本学ならびに経済学部の発展に尽力されました。先生は、学部において「経営史」や「経営学」の講義、「ゼミナール」を担当され、多数の学生の教育にあたられました。先生の教育を受けた多くの卒業生は、現在社会の第一線で活躍しております。また、大学院での指導を通じ研究者養成にも多大な貢献をし、大学やその他の研究職に就く者を数多く育てられました。その間、経済学部長兼大学院経済学研究科委員長や本学の評議員などの要職を歴任されました。その他、経営学専攻の設置や新たな大学院構想策定などに中心的役割を果たされ、本学および学部、大学院の発展に大きく寄与されました。

丸山先生の最近の研究は、日本的経営ならびに日本的生産システム（トヨタ生産システム）が海外に移転され、ジャパナイゼーションとしての波が世界に広がった段階での企業経営について検討されています。アジアにおける自動車産業の研究やボルボの研究など、いずれの研究にも人間労働の再生という視点が貫かれています。こうした先生の研究視座は研究当初からのものであったと思われます。博士の学位論文としてまとめられた『日本的経営—その構造とビヘイビア—』（日本評論社、1989年）以来、『現代の経営学—大量生産からフレキシブル生産へ—』（産業統計研究社、1993年）、『日本的生産システムとフレキシビリティ』（日本評論社、1995年）、そして『東アジア経済圏と日本企業』（新日本出版社、1997年）と単著書を上梓されていますが、日本的経営や日本企業がもてはやされる時代から、その陰になる部分を批判的に検討されてきました。人間労働の再生という課題に関しては、先生の生涯の研究テーマとして現在も研究を継続されておられます。ここにあげた単著のみならず、先生を中心に行われた共同研究についても、学会はじめ社会で高く評価されております。

このように、先生は多くの研究業績を発表し、研究者として、また教育者として社会に貢献されてこられました。研究発表の場となる日本経営学会、日本産業学会、経済理論学会、経営史学会、アジア経営学会などに所属され、経営学の発展に尽くされると共に、とりわけ経営学研究者のほとんどが所属する日本経営学会やアジア経営学研究の第一人者が集うアジア経営学会では理事の要職に就かれ、学会及び学会活動を通じての研究・教育の発展に貢献されました。

立教大学は先生の学術上、教育上の功績の顕著なことにより2000年7月、先生に名誉教授の称号を贈りました。

先生はいま定年退職の時期を迎えられましたが、経済学部の発展に尽力してこられました先生の功績を永くとどめるために、本号を先生の記念号といたします。

先生の今後のご健康とご活躍を祈念すると同時に、これまでと変わらぬご助力を本学および経済学部のために賜りますようお願い申し上げます。

2001年1月

経済学部長 北川 和彦